

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

中学校区 校番 17 学校名 呉市立昭和北中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	基礎的・基本的な内容の習得を図り、思考力・表現力(コミュニケーション力)を養う。	対話的な授業による学習意欲の喚起 読書活動の推進 自分の志を表現できる生徒の育成 言語能力、情報活用能力、課題発見・解決能力等の育成	○授業が分かりやすいと感じている生徒の割合(アンケート調査)は90%で目標値に達している。(1年生95%→95%, 2年生83%→86%, 3年生92%→90%)学習内容が難しくなる3年生では数値が下がったものの、1年生は維持、2年生は数値が上がっている。 ○授業中に全員が応答できたり、参加しているという気持ちをもてる生徒の割合(アンケート調査)は92%で目標値に達している。1学期より落ち着いた雰囲気での学習に取り組むことができた。 ○1か月の間に本を1冊以上読んでいる生徒の割合(アンケート調査)は61%で目標値を下回った。(1年生76%→71%, 2年生66%→66%, 3年生65%→58%)1学期は昨年度より昼休憩に図書室を開館できている日が多かったため図書館利用ができたが、2学期以降は開館日が少なかったことが考えられる。また、3年生の数値の低下は、高校進学のため時期が迫り、読書の時間が減ったと考えられる。 ○「中学3年時に自分の志、理由、道筋を3文以上、自分の言葉で表現できる生徒の割合」は96と、目標値に達している。 ○「『全国学力・学習状況調査』の通過率と『自校調査』の通過率との比較」は12と、目標値に達している。3年生の学習や生活が落ち着き、進路に向けた意識が高まったと思われる。	○キュビナの効果検証校(数学)に指定され活用の効果が認められた。来年度は全教科で計画的に活用する。 ○来年度は給食が開始されることから、給食配膳中に図書館を開館できるため、開館する機会が増える。図書委員会、図書部を活用した読書活動の推進と図書室の活用をすすめていく。 ○学活、総合的な学習の時間等で、将来の希望をもたせながら進路に向けた意欲を高める。
**	基本的な生活習慣を身に付け、進んで他者とかかわりながら、社会に貢献しようとする生徒を育成する。	「自らへの自信」の涵養及び道徳実践力の向上 規範意識を涵養 安心・安全な環境	○授業を通しての自己有用感の向上 自分にはよいところがあると思う生徒の割合が81%と目標数値を上回った。一年間を通してほぼ落ち着いた生活を送ることができた。先生方の日々の授業や部活動などでの個別指導や声かけができていたことが要因だと考えられる。 ○生徒指導規定を核とする組織的な指導の推進による自己指導能力の育成 時間を守る生徒が96%と目標を達成した。欠席、遅刻する生徒は多いが、昨年度の校内の見回り、声かけの成果でほとんど授業遅刻する生徒はいなくなった。生徒会による毎週水曜日の朝の挨拶運動や教職員による朝の下足チェックを継続して行い、自ら挨拶をする生徒93%(達成値95%)も増えてきているが、前回よりも少し下がった。学年が上がるにつれて、挨拶の声も小さく自らは少なくなっている。 ○災害から自分の命を守る意識の向上 広島県土木建築局の方による出前授業を行い、概ね目標値は達成した。しかし、「自分の住む地域に起こりやすい災害の理解が」87%(達成値90%)と低い。今後100%を目指し参観日など保護者の方を交えての授業なども計画していきたい。また、学年により時間が十分確保	○引き続き、授業等での生徒への肯定的な声かけを増やしていく。 ○生徒会を中心としたキャンペーン活動を取り入れ、生徒同士で声かけできる環境を構築していく。 ○教職員が見本となって生徒に挨拶をしていく。 ○全学年で共通した教材や資料提供していく。 地域の方との防災訓練や講演会を実施していく。
*	活力があり、主体的に体力・運動能力の向上に取り組む生徒を育成する。	活力を喚起する体験活動の充実 家庭・地域・学校生活を通しての主体的な体力づくり、運動能力の向上	○学校行事・生徒会活動の活性化 学校行事や生徒会活動等に満足している生徒の割合は、中間報告時と同じく91%と、目標値をかなり上回った。クラスマッチなどの行事にも積極的に取り組み、望ましい人間関係を醸成している。特に総合文化展示発表会での合唱コンクールでは、級友たちに声掛けをして団結しようとする姿が見られた。 ○体育の授業及び「くれ・チャレンジマッチ・スタジアム」を活用 男子50m走で全国平均7.89に対し7.79、男子シャトルランで全国平均80.37に対し81.76、女子シャトルランで全国平均53.94に対し55.24となり、3種目で全国平均を上回った。	○これからも学校行事やクラスマッチで充実した取り組みを行い、生徒の活力を喚起する。 ○男女ともにシャトルランが全国平均をコア得ることができた。一方、どの学年も柔軟性に課題があり、それに伴って器械運動などで怪我が多いことが

<p>業務改善</p>	<p>持続可能な教育環境の整備</p>	<p>教育活動へのやりがい 長時間勤務の削減</p>	<p>○教職員間のコミュニケーションの充実 教職員間の横や縦の繋がりができ、相談し合う場面も増えた。</p> <p>○週1回の定時退校の徹底 水曜日を定時退校日としている。定時退校の徹底はできていないが部活動が休養日となっているため、教職員が放課後を利用して仕事ができるため、他の日に比べて退校時間は早くなっている。</p> <p>○部活動休養日の定着 部活休養日は定着できている。会議・校内研修・職員連絡会の精選と開催日の工夫は継続して行っている。 時間外勤務が月45時間を越えない教職員の4月から12月までの平均が27人であった。これは全体の67.5%(昨年度63.6%)に当たり目標を達成できなかったが昨年度と比較して割合は高くなっている。少しずつであるが年々改善傾向にある。</p>	<p>○教職員間の援助希求しやすい雰囲気を大切にする。</p> <p>○会議や研修の開催日や内容の精査を継続していく。 ○退校しやすい雰囲気を大切にする。</p> <p>○入退校管理システムを活用する。</p>
-------------	---------------------	--------------------------------	---	---